

## 沖縄県大宜味村大兼久方言の記述

—格助詞・とりたてを中心に—

中本謙（琉球大学）

### 1. 沖縄県大宜味村大兼久の概要

大宜味村は、東シナ海に面し、北は国頭村、南は名護市に隣接している。また西は、脊梁山地となっており、東村に隣接している。東西に 8 km、南北に 14.4 kmの広さを持つが、村の総面積の 76%は森林となっている。

大兼久は、大宜味村のほぼ中央に位置する。方言の名称ではウフガニク、ハニクと呼ばれている。隣接する大宜味部落から 270 年ほど前に分離した部落であるといわれており、イリミ・ハニクと連称されることもある<sup>1</sup>。

### 2. 沖縄県大宜味村大兼久方言の概要

大宜味村大兼久方言（以下、大兼久方言と称する）は、沖縄本島北部方言に属する。

以下、これまでの調査で得られた資料から、音韻、助詞の主な特徴を示す。

音韻的には、沖縄北部方言に広く見られるように、大兼久方言でも中央語のハ行子音に対応する p 音、カ行子音に対応する h 音がみられる。カ行子音、ハ行子音の対応からその特徴を具体的に示すと次の通りである。

①語頭において中央語のカに対応するものは、/k/→/h/により/ha/となる。

例. [haɡami]（鏡）[ha:mi]（亀）

②語頭において中央語のケに対応するものは、/hi/となる。

例. [çi:]（毛）[çi:buʃi]（煙）

③語頭において中央語のキに対応する/k<sup>2</sup>i/、クに対応する/k<sup>2</sup>u/がみられる。

例. [k<sup>2</sup>iN]（衣）[k<sup>2</sup>innu:]（昨日）[k<sup>2</sup>umun]（汲む）

④中央語のコに対応するものの多くは、[hu]となる。

例. [hui]（声）[tahu]（たこ）

⑤中央語のハは、主に[ɸa]に対応する。

例. [ɸa:]（歯）[ɸana]（鼻）[ɸama]（浜）

[pasami]（はさみ）のように[pa]の例も少ないがみられる。

⑥中央語のヒ、フに対応する語において比較的[p<sup>2</sup>]がみられる傾向がある。[p<sup>2</sup>i:]（火）[p<sup>2</sup>igi]

（髭）[p<sup>2</sup>uju:]（冬）

<sup>1</sup>津波高志他(1982)による。

⑦中央語のホは、[puʃi]（星）[ɸuni]（骨）のように[pu]と[ɸu]に対応する。

助詞については、主格の格助詞がガ（が）に統一されていく傾向がみられ、連体用法はヌ（の）に統一されていく傾向等がみられる。また、とりたてについても、du（ぞ）の結びはみられるが、ga（が）の結びはみられない等の特徴がある。

なお、本報告の資料は、1928年生の女性（生え抜き）によるものである。調査は2018年11月から12月にかけて臨地調査を行った。

### 3. 人口構成からみた大兼久方言

2018年3月現在、大兼久の人口は115名である。大まかな年齢による内訳は以下の通りである。

年齢	人数
65歳以上	42名
15歳～64歳	66名
0歳～14歳	7名

現在、伝統的な方言が話せる話者は、老年層のみであるため、その人数の少なさが見てとれる。より古い層の方言を知る80代以上となると、さらにその人数は少なくなる。地域の人々によると、40代以下の世代は方言が話せない状況にあるようである。

### 4. 共通語教育と方言教育および方言保存活動

大宜味村でも、かつては方言札が使用されており、本報告の話者の女性も子供のころ見たことがあり、罰札としての怖いイメージが強かったようである。

現在、大兼久で方言大会等の方言に関するイベントや活動は特になされていないが、昨年、大宜味幼稚園で、方言劇、「大宜味ゼーク（大工）」が園児たちによって演じられた。地元の演題ということもあり好評を博したとのことである。

2016年4月から大宜味村の小学校は、喜如嘉、大宜味、塩屋、津波の4小学校が統合され新大宜味小学校となっている。統合前の小学校では、いくつか方言の授業実践がなされている。たとえば、喜如嘉小学校では、2015年に単元名「～地域（喜如嘉・謝名城・田嘉里）の方言を集めて「方言コレクションボックス」をいっぱいにして～」という4年生の授業が酒井里美教諭によって実践されている。これは、方言を「お宝」として捉え、コレクションするものである。児童たちは、それぞれ3つの部落のお宝（方言）を地域のお年寄りを訪ねて聞き取り、互いに紹介し合うことで、地域のことばの多様性、豊かさを実感している。授業者は、地域と教室を結ぶことで、地域への愛着に基づいた自己肯定感を育むことにもつながるとみている。

## 5. 方言資料の作成

大宜味村全体の方言については、名護市史編纂委員会(2006)で地域差も含めて大まかな特徴が示されている。また各部落単位の資料としては、田嘉里方言の音調体系を示したローレン(2004)や津波方言の音韻体系を示した琉球方言クラブ(1992)等がある。

大兼久の方言については、ローレンス(2010)で大宜味村内4地点のアクセントの比較資料の1地点として示されている。また、大宜味村内のいくつかの部落では、私家版の方言集なども作成されているが、大兼久については、作成されていない。村内の中では、比較的方言資料の少ない地域であると言える。

## 6. 大兼久方言の音韻と音声

これまでの調査により確認された拍の表とその語例を示す。

### 6.1 拍体系表<sup>2</sup>

/ʔi/	/ʔe /	/ʔa/	/ʔo/	/ʔu/	/ʔja/					/ʔwa/	
イ	エ	ア	オ	ウ	ツヤ					ツワ	
[ʔi]	[ʔe]	[ʔa]	[ʔo]	[ʔu]	[ʔja]					[ʔwa]	
/ʔi /	/ʔe/			/ʔu /	/ʔja/	/ʔjo /	/ʔju/		/ʔwe/	/ʔwa/	
イイ~イ	イエ~エ			ウウ	ヤ	ヨ	ユ		ウエ	ワ	
[ji]~[i]	[je]~[e]			[wu]	[ja]	[jo]	[ju]		[we]	[wa]	
/hi/	/he/	/ha/	/ho/	/hu/	/hja/			/hwi/	/hwe/	/hwa/	/hwu/
ヒ	ヘ	ハ	ホ	フウ	ヒヤ			フィ	フェ	ファ	フ
[çi]	[he]	[ha]	[ho]	[hu]	[ça]			[phi]	[phe]	[pha]	[phu]
/kʰi /				/kʰu/					/kʰwe/		
ツキ				ツク					ツクエ		
[kʰi]				[kʰu]					[kʰwe]		
/ki/	/ke/	/ka/	/ko/	/ku/		/kjo/				/kwa/	
キ	ケ	カ	コ	ク		キョ				クワ	
[ki]	[ke]	[ka]	[ko]	[ku]		[kjo]				[kwa]	
/gi/	/ge/	/ga/	/go/	/gu/						/gwa/	
ギ	ゲ	ガ	ゴ	グ						グワ	
[gi]	[ge]	[ga]	[go]	[gu]						[gwa]	
/tʰi/		/tʰa/									
ツティ		ツタ									
[tʰi]		[tʰa]									

<sup>2</sup> 語頭において母音単独の前では、/ʔ/グロツタルストップ（声門閉鎖音）があらわれるが、便宜的にカタカナ表記では、省略して示す。

/ti/	/te/	/ta/	/to/	/tu/							
ティ [ti]	テ [te]	タ [ta]	ト [to]	トゥ [tu]							
/di/	/de/	/da/	/do/	/du/							
ディ [di]	デ [de]	ダ [da]	ド [do]	ドゥ [du]							
/tʃi/											
ツチ [tʃi]											
/ci/	/ce/	/ca/	/co/	/cu/							
チ [tʃi]	チェ [tʃe]	チャ [tʃa] ~ [tʃa]	チョ [tʃo]	ツ [tsu]							
/si/	/se/	/sa/	/so/	/su/							
シ [ʃi]	セ [se]	サ [sa]	ソ [so]	ス [su]							
/zi/		/za/	/zo/	/zu/							
ジ [dʒi]		ザ [dza]	ゾ [dzo] ~ [dʒo]	ズ [dzu]							
/ri/	/re/	/ra/	/ro/	/ru/							
リ [ri]	レ [re]	ラ [ra]	ロ [ro]	ル [ru]							
/ni/	/ne/	/na/	/no/	/nu/							
ニ [ni]	ネ [ne]	ナ [na]	ノ [no]	ヌ [nu]							
/pʰi/				/pʰu/							
ツピ [pʰi]				ツプ [pʰu]							
/pi/	/pe/	/pa/	/po/	/pu/							
ピ [pi]	ペ [pe]	パ [pa]	ポ [po]	プ [pu]							
/bi/	/be/	/ba/	/bo/	/bu/							
ビ [bi]	ベ [be]	バ [ba]	ボ [bo]	ブ [bu]							
/mi/	/me/	/ma/	/mo/	/mu/							
ミ [mi]	メ [me]	マ [ma]	モ [mo]	ム [mu]							
/N/[n, m, ŋ, N]ㄥ											
/Q/[p, s, t, k]ㄱ											
/i/[i] /e/[e] /a/[a] /o/[o] /u/[u] ー											

6.2 大兼久方言の拍語例

/ʔi/	イ	[ʔi]	イキ[ʔiki] (息) イッカー[ʔikka:] (イカ)
/ʔe/	エ	[ʔe]	エンヤサ[ʔenjasa] (勢いをつけるときのかけ声)
/ʔa/	ア	[ʔa]	アジ[ʔadʒi] (味) アハングワ[ʔakangwa] (赤ん坊) アンマー[ʔamma:] (母)
/ʔo/	オ	[ʔo]	オーエー[ʔo:e:] (喧嘩) オーゲー[ʔo:ge:] (扇げ)
/ʔu/	ウ	[ʔu]	ウタハタ[ʔutahata] (弟) ウツケーメー[ʔukke:me:] (お粥)
/ʔja/	ツヤ	[ʔja]	ツヤー[ʔja:] (お前)
/ʔwa/	ツワ	[ʔwa]	ツワー[ʔwa:] (豚)
/ʔi/	イイ~イ	[ji] ~[i]	イイナグ[jinagu] (女) ガイ[gai] (カニ)
/ʔe/	イエ~エ	[je]~[e]	イエー[je:] (もう) オーエー[ʔo:e:] (喧嘩)
/ʔu/	ウウ	[wu]	ウウトウ[wutu] (夫) ウウー[wu:] (芭蕉糸)
/ʔja/	ヤ	[ja]	ヤー[ja:] (家) ヤムン[jamuN] (痛い)
/ʔjo/	ヨ	[jo]	ヨーパー[jo:ba:] (弱い人)
/ʔju/	ユ	[ju]	ユラー[jura:] (枝) ユー[ju:] (お湯)
/ʔwe/	ウエ	[we]	ウエンツ[wentsu] (ねずみ)
/ʔwa/	ワ	[wa]	ワン[waN] (私) シワ[ʃiwa] (心配)
/hi/	ヒ	[çi]	ヒティミティ[çitimiti] (朝) ウウヒガ[wuçiɡa] (男)
/he/	ヘ	[he]	ヘーン[he:N] (帰る)
/ha/	ハ	[ha]	[hagami] (鏡) スクハン[nukuhan] (暖かい)
/ho/	ホ	[ho]	ホートウ[ho:tu] (鳩) ホーン[ho:N] (買う) ホージ[ho:dʒi] (かび)
/hu/	フウ	[hu]	フウイ[hui] (声) フウミ[humi] (米) フウー[hu:] (粉)
/hja/	ヒヤ	[ça]	ヒヤク[çaku] (百)
/hwi/	フィ	[fi]	フィラ[fiɾa] (へら) ノーフイン[no:fiN] (もつと)
/hwe/	フェ	[fe]	フェー[fe:] (南) イーフエー[ʔi:fe:] (位牌) フェーハン[fe:han] (早い)
/hwa/	ファ	[fa]	ファー[fa:] (歯) ファゴーハン[ɸago:han] (汚い)
/hwu/	フ	[fu]	フビ[ɸubi] (壁) [ɸuni] (船) サフイ[safui] (咳)
/kʰi/	ツキ	[kʰi]	ツキンヌー[kʰinnu:] (昨日) ツキム[kʰimu] (肝)
/kʰu/	ツク	[kʰu]	ツクムン[kʰumuN] (汲む)
/kʰwe/	ツクエ	[kʰwe]	ツクエーン[kʰwe:N] (肥える) ツクエー[kʰwe:] (鍬)

/ki/	キ	[ki]	サキ[saki] (酒) サバキ[sabaki] (櫛)
/ke/	ケ	[ke]	ウ ッ ケ ー メ ー [ʔukke:me:] (粥) イン ケ ー [ʔiŋke:] (おじさん)
/ka/	カ	[ka]	カツー[katsu:] (鯉) チカハン[tʃikahan] (近い) ムシカ[muʃika] (もしか)
/ko/	コ	[ko]	コーレー[ko:re:] (兄弟) コーセー[ko:se:] (壊せ) アイコー[ʔaiko:] (蟻)
/ku/	ク	[ku]	クサ[kusa] (草) ハクン[hakuN] (書く)
/kjo/	キョ	[kjo]	イキョースン[ʔikjo:suN] (行ける)
/kwa/	クワ	[kwa]	クワーシ[kwa:ʃi] (菓子) ナンクワン[naŋkwaN] (南瓜) クワッキー[kwakki:] (ご馳走)
/gi/	ギ	[gi]	ウサギ[ʔusagi] (ウサギ) フィンギララン[ʃiŋgiraraN] (逃げられない)
/ge/	ゲ	[ge]	ドウゲン[dugeN] (転ぶ) ウタゲーン[ʔutage:N] (疑う)
/ga/	ガ	[ga]	ガイ[gai] (カニ) アガイ[ʔagai] (東)
/go/	ゴ	[go]	インゴーハン[ʔiŋgo:han] (痒い)
/gu/	グ	[gu]	グナハン[gunahan] (細かい) イイナグ[jinagu] (女)
/gwa/	グワ	[gwa]	アハングワー[ʔahangwa:] (赤ん坊)
/tʰa/	ツタ	[tʰa]	ツタイ[tʰai] (二人) ツターチ[tʰa:tʃi] (二つ)
/ti/	ティ	[ti]	ティー[ti:] (手) ウティン[ʔutiN] (落ちる)
/te/	テ	[te]	テーゲー[te:ge:] (大概)
/ta/	タ	[ta]	ター[ta:] (田) イタ[ʔita] (板)
/to/	ト	[to]	トー[to:] (平らな)
/tu/	トゥ	[tu]	トゥイ[tui] (鳥) シグトゥ[ʃigutu] (仕事)
/de/	デ	[de]	デークニ[de:kuni] (大根)
/da/	ダ	[da]	ダキ[daki] (竹) [midari:N] (乱れる)
/do/	ド	[do]	ドーグ[do:gu] (道具)
/du/	ドウ	[du]	ドウゲン[dugeN] (転ぶ)
/cʰi/	ツチ	[tʰi]	ツチー[tʰi:] (来て)
/ci/	チ	[tʃi]	チブル[tʃiburu] (頭) ヌーチ[nu:tʃi] (命) チラ[tʃira] (顔)
/ca/	ツァ~チャ	[tsa]~[tʃa]	チャー[tʃa:] (茶) [ʔatsahan] (熱い)
/co/	チョ	[tʃo]	チョーチョ[tʃo:tʃo] (蝶)

/cu/	ツ	[tsu]	ツクン[tsukuN] (作る) ウフツ[ʔuɸutsu] (大人)
/si/	シ	[ʃi]	シミ[ʃi:ʃi] (肉) アンシ[ʔanʃi] (ととも)
/se/	セ	[se]	ファナセー[ɸanase:] (放せ)
/sa/	サ	[sa]	サバキ[sabaki] (櫛) バサ[basa] (馬車)
/so/	ソ	[so]	ソーキ[so:kibuni] (肋骨) ソー[so:] (竿) ソーガチ[so:gatʃi] (正月)
/su/	ス	[su]	スー[su:] (今日) スス[susu] (煤) ピンスー[pʔinsu:] (貧相)
/zi/	ジ	[dʒi]	ジー[dʒi:] (字) クンジーン[kundʒi:n] (崩れる) ハジ[hadʒi] (風)
/za/	ザ	[dza]	ピザイ[pidzai] (左) ガザミ[gadzami] (蚊)
/zo/	ゾ~ジョ	[dzo]~[dʒo]	ゾー[dzo:] (門) ジョージ[dʒo:dʒi] (上手)
/zu/	ズ	[dzu]	ズー [dzu:] (尾) ガーズー[ga:dzu:] (私の強い者) マンズー[mandzu:] (パパイヤ)
/ri/	リ	[ri]	リカ[rika] (さあ) カリタン[karitan] (枯れた)
/re/	レ	[re]	インレー[ʔinre:] (入れろ)
/ra/	ラ	[ra]	ハラジ[haradʒi] (髪) ティラ[tira] (太陽)
/ro/	ロ	[ro]	インリンロー[ʔinrinro:] (濡れるよ)
/ru/	ル	[ru]	ルー[ru:] (胴) ファル[ɸaru] (畑)
/ni/	ニ	[ni]	ニー[ni:] (根) ハニ[hani] (鐘)
/ne/	ネ	[ne]	ネーグー[ne:gu:] (びっこ)
/na/	ナ	[na]	ナナチ[nanatʃi] (七つ) グナハン[gunahan] (細かい)
/no/	ノ	[no]	ノースン[no:suN] (治す)
/nu/	ヌ	[nu]	ヌヌ[nunu] (布) ヌクハン[nukuhan] (温かい)
/pʰi/	ツピ	[pʰi]	ツピー[pʰi:] (火) ツピーザ[pʰi:dza] (山羊)
/pʰu/	ツプ	[pʰu]	ツプー[pʰu:] (屁) ツプユー[pʰuju:] (冬)
/pi/	ピ	[pi]	ピサ[pisa] (足) ピザイ[pidzai] (左)
/pa/	パ	[pa]	パサミ[pasami] (ハサミ) パシ[paʃi] (雨戸)
/pu/	プ	[pu]	プシ[puʃi] (星) プタ[puta:] (蓋)
/bi/	ビ	[bi]	フビ[ɸubi] (壁) イビガニ[ʔibigani] (指輪)
/be/	ベ	[be]	スベー[sube:] (小便) ハンベー[hambe:] (被れ)
/ba/	バ	[ba]	バーキ[ba:ki] (籠) ナバ[naba] (きのこ)
/bo/	ボ	[bo]	ボーギリ[bo:giri] (棒切れ)
/bu/	ブ	[bu]	ソーキブニ[so:kibuni] (肋骨)

/mi/	ミ	[mi]	ミチャ[mitʃa] (土) [mi:] (目) ハーミ[ha:mi] (亀)
/me/	メ	[me]	メー[me:] (前) メーニチ[me:niʃi] (毎日) メーシ[me:ʃi] (箸)
/ma/	マ	[ma]	マーミーサートゥー[ma:mi:sa:tu:] (カマキリ) ジーマミ[dʒi:mami] (地豆) ナマ[nama] (直ぐ)
/mo/	モ	[mo]	モーセー[mo:se:] (燃やせ)
/mu/	ム	[mu]	ムトゥ[mutu] (全部) カムン[kamuN] (食べる)
/N/	ン	[m,n,ŋ,N]	アンマー [ʔamma:] (母) グナハン[gunahan] (細かい) アハングワー[ʔahangwa:] (赤ん坊) アンラ[ʔanra] (油)
/Q/	ツ	[p,t,k,s]	テッポー[teppo:] (鉄砲) アックン[ʔakkun] (歩く) トゥバハッタン[tubahattan] (飛ばされた) ハッサン[hassan] (軽い)
/i/	ー	[i]	ミー[mi:] (目)
/e/	ー	[e]	メー[me:] (前)
/a/	ー	[a]	サー[sa:] (下)
/o/	ー	[o]	オーゲー[ʔo:ge:] (扇げ)
/u/	ー	[u]	ツュー[ʔju:] (魚)

## 7. 大兼久方言の助詞

### 7.1 格助詞

#### 7.1.1 ガ ga 主格

人称代名詞、人名、親族呼称につく。

- (1) wa:ga ʔikundo:. (私が 行くよ。)
- (2) huriga ʔikundo:. (これが 行くよ。)
- (3) ʔariga ʔi:taN. (あれが 言った。)
- (4) taruga hakuga. (誰が 書くのか。)
- (5) hanakoga ku:N. (花子が 来る。)
- (6) pusume:ga mitʃa:kuN. (おじいさんが ごらんになる)



(7)  $\phi$ a:ma:ga wan ?abitakuN. (おばあさんが私を呼んでいる。)

(8) ni:saŋga tsukuri turasanri. (にいさんがつくってくれるよ。)

指示代名詞につく。

(9) huriga nagahaN. (これが長い。)

(10) humaga ŋirahaN. (ここが涼しい。)

(11) dʒiruga takahaiga. (どれが高いか。)

普通名詞につく。

(12) ʧi:ga hari:N. (木が枯れる。)

(13) tuiga tubuN. (鳥が飛ぶ。)

(14) ?umiga ?arahanu. (海が荒れる。)

(15) su:ja ?amiga  $\phi$ undo:. (今日は雨が降るよ。)

7.1.2 ガ ga 目的

(16) sumuʧi ho:iga ?ikundo:. (本を買いに行くよ。)

(17) ?umu  $\phi$ uiga ?ikundo:. (芋を掘りに行くよ。)

(18) ?aʃibi:ga ?ikai:. (遊びに行こうね。)

7.1.3 ヌ nu 主格

(19) ?amanu jamanija  $\phi$ abunu wunro:. (あの山にはハブがいるよ。)

(20) ?amanu jamanija ?iŋkwanu wunro:. (あの山には犬がいるよ。)

大兼久方言の主格は、「自称・対称の代名詞」「指示代名詞(人、事物)」「人名」「親族呼称」「一般名詞」すべてがで承ける。しかし、上掲のように一般名詞においてヌで承ける語もみられる。これまでの調査によると、ガで承ける場合とヌで承ける場合とでは、次のように意味が異なるとのことが確認された。

ハブの例で示すと、目の前に実際にハブがいる場合は、ガで受け、?amanu jamanija  $\phi$ abunu wunro:. (あの山にはハブがいるよ。)のように生息していることは知っているが、目の前にいない場合には、ヌで承けるとのことである。この区別については、主格助詞がガに統合されていくなかで、新たに発生した弁別機能ということも考えられる。周辺地域

も含めて、今後さらに追求していきたい。

#### 7.1.4 φ（無助詞）対象

共通語の対象（を）に相当する格は、無助詞で表される。

(21) wanja saki numuN. (酒を 飲む。)

(22) mandzui jigutu sa. (一緒に 仕事を しよう。)

(23) nuhuqifi: çi: k<sup>2</sup>ittjaN. (鋸で 木を 切った。)

(24) tja: hataku ?inriro: (お茶を 濃く 入れろよ。)

「水が飲みたい」のようないわゆる対象の「が」は、midzi mumibusaN のように表される。

#### 7.1.5 ネー (ne:) <sup>3</sup>

場所

(25) hanako:ja huzu:kara to:kjo:ne: wunro:. (花子は 去年から 東京に いるよ。)

(26) honja humane: ?anro:. (本は そこに あるよ。)

(27) φarune: jasai ?uitaN. (畑に 野菜を 植えた。)

(28) ti:ne: kizi tfikitaN. (手に 傷を つけた。)

対象

(29) hanako:ja wubama:ne: ni:tsuN. (花子は おばさんに 似ている。)

時

(30) hanako:ja φatfigwatsune: herti kunro:. (花子は 8月に 帰って くる。)

原因

(31) ?amine: ?inritaN. (雨に 濡れた。)

受身

(32) ?amma:ne: nure:kurahattaN. (母に 叱られた。)

(33) taru:ja ?anne: φurahattaN. (太郎は あれに 殴られた。)

<sup>3</sup> 内間、新垣(2000)では、[nija] (には) の融合したものとの見方が示されているが、大兼久方言では、助詞[ja]は、承ける語と融合しないので、別の可能生も考える必要がある。

使役

(34) haʒine: tubahattaN (風に 飛ばされた。)

#### 4.1.6 ニ ni

ni もあらわれるが、用例は少ない。

場所

(35) to:kjo:ni nama tʃittʃaN. (東京に 今 着いた。)

時間

(36) rokuʒini ʔukitaN (六時に 起きた。)

変化の結果

(37) midʒiga ko:ri:ni nattan. (水が 氷に なった。)

次のように無助詞であらわされることもある。

(38) ʔagaridzo:nu mitsuoja ʔisa nattan. (東門の ミツオは 医者に なった。)

#### 7.1.7 チ tʃi

方向

(39) gakko:tʃi ʔike:. (学校へ 行け。)

(40) naʔa:tʃi ʔike: (那覇へ 行け。)

(41) ʔja:ja ʔama:tʃi ʔike:. (君は あっちへ 行け。)

(42) ʔuma:tʃi ku:ba. (ここへ 来い。)

(43) jama:tʃi nubura:. (山へ 登ろう。)

(44) ʔintuna:tʃi ʔikundo:. (辺土名へ 行くよ。)

(45) ʔantsu:ja ʔumi:tʃibe: ʔikunja:. (あの人は 海へばかり 行くね。)

(46) pahunu naha:tʃi ʔinre:. (箱の中へ 入れろ。)

変化の結果

(47) ʔiruga ʔaka:tʃi kawatan. (色が 赤へ 変わった。)

#### 7.1.8 トウ tu

共同動作の相手

(48) k<sup>2</sup>innu:ja ruʃibitu ʔaʃiran. (昨日 友達と 遊んだ。)

(49) ʔujatu mandzui ʔidzan. (親と 一緒に 行く。)

引用

(50) na:ja taro:tu ʔi:nja:. (名は 太郎と いうよ。)

#### 7.1.9 カラ kara

起点

(51) ʔa:me:ja k<sup>2</sup>innu:kara jamme:ʃi: nintun. (祖母は 昨日から 病気で 寝ている。)

(52) basuja ʔumakara ʔidziN. (バスは ここから 出る。)

(53) ʔja:kara ʔike:. (君から行け。)

(54) ʔuʔutsukara kwa:mari ʔatsumanriro:. (大人から 子どもまで 集まるってよ。)

手段

(55) ʔanu ʃimatʃija ʃinikara ʔikun. (あの島へは 船で 行く。)

行動場所

(56) ʔotto:ja ʔamakara ʔattʃa:kun. (父は 浜を 歩いている。)

#### 7.1.10 ンティ nti

場所

(57) su:ja ja:nti ʔaʃirakun. (今日は 家で 遊ぶ。)

(58) ha:nti ʔasidan. (川で 遊んだ。)

(59) ha:nti ʔubukutan. (川で 溺れた。)

#### 7.1.11 シーʃi:

道具

(60) taro:ja bo:ʃi: saburo: hurutʃan. (太郎は 棒で 三郎を 殴った。)

(61) ʔuriʃi: hakun. (筆で 書く。)

材料

(62) ʔunu kwaʃija mamifʃi: tsukun. (その 葉子は 豆で 作る。)

原因

(63) haʒiʃi to:ritaN. (風で 倒れた。)

手段

(64) naʔamari dzido:ʃaʃi ʔidzaN. (那覇まで 自動車で 行った。)

ʃi: (で) の承ける体言が、自動車や船等の場合は、自ら運転、操縦する場合である。つまり移動の手段のための道具として捉えているということであろう。

タクシーやフェリー等、自ら運転、操縦しない移動手段の場合は、çinikara(船で)のように kara を用いる。

#### 7.1.13 ヨーカン jo:kaN

比較の対象

(65) hurijo:kan ʔariɣamaʃi je:sa. (これより あれが 良い。)

(66) wanja ʃi:ʃio:kanre: ʔju:ga maʃi. (私は 肉より 魚が 良い。)

#### 7.2 とりたて

大兼久方言のいわゆるとりたての助詞は、ja (は)、n (も)、du (ぞ)、ga (か)、madi (まで)、bika:n (ばかり) be: (ばかり、だけ) bike: (ばかり) atai (ぐらい) na: (ずつ) jetin (でも) nre: (など、なんか) が、これまでの調査で確認された。

##### 7.2.1 ヤ ja (は) <sup>4</sup> 題目の提示

(67) ʔja:ja ʔattsan tʃi: turafiro:. (君は 明日も 来て くれるかい。)

(68) p<sup>2</sup>uju:ja p<sup>2</sup>i:hanu n:kjo:han. (冬は 寒くて 動けない。)

(69) ʔja:gja hakun. (君がは 書く。)

(70) ʔariɣa:ja naran. (彼がは できない。)

(71) maja:gja kamaN (猫がは 食べない。)

(72) sumuʔja ho:ranntan. (本は 買わなかった。)

<sup>4</sup> 沖縄中南部の方言等では、ja (は) は、承ける語の末尾音と規則的に融合する現象がみられる。例えば、沖縄奥武方言では、「あれは」は アリ ʔari+ヤ ja→アレーʔare:、「雲は」はクム kumu+ヤ ja→クモーkumo:等のようなものである。大兼久方言では、このような ja (は) の融合はみられない。

(73) ?amma:nija ?umikitʃi nure:kurahattan. (母には よく 叱られた。)

(74) wanja to:kjo:tʃija ?ikan. (私は 東京へは 行かない。)

(75) ?otto:tuja na:ɸanti wakaritan. (お父さんとは 那覇で 別れた。)

(76) ?anu ?inukwakaraja ɸingiraran. (あの 犬からは 逃げられない。)

(77) sammatʃija kwa:haransanni. (サンマでは 釣れない。)

7.2.2 ン n (も) 事情の似通ったものが他にもあることを言外に示しつつ提示

(78) ?arin hurin kurahanja. (あれも これも 美しいね。)

(79) ?amin ɸuifiga hadzin ɸukun. (雨も 降るし 風も 吹く。)

(80) dʒiro:tʃin taro:tu ?inu saba koti turase.  
(次郎にも 太郎と 同じ 草履を 買って あげなさい。)

(81) warankan wakairu suru. (子どもたちも 分かっている。)

(82) je: tarun ?uranfiga. (もう 誰も いない。)

(83) tin pisan jamun. (手も 足も 痛い。)

(84) jamatu:tʃin naɸa:tʃin ?idzanu kutuja ne:n.  
(大和へも 那覇へも 行ったことが ない。)

(85) namaja ?amma:tun ?a:tinnen. (今は 母とも 会っていない。)

(86) ?unu ʃigutuja ?ja:n naimi. (この 仕事は 君も できるか。)

(87) ?inukwagan kaman. (犬がも 食べない。)

(88) ?anu sumutʃin ?unu sumutʃin jumun. (あの 本も この 本も 読む。)

(89) ?amma:karan ?otto:karan ɸingiraran. (母からも 父からも 逃げられない。)

7.2.3 ル ru (ぞ) 強調

ru (ぞ) でとりたて、「ru 結び形」と呼応する。強意をそえる。ただし、別の結びもある。

(90) dʒi:ru hakuru. (字ぞ 書く。/字を書くのだ。)

(91) namaru ʔukuru. (今ぞ 起きる。/今起きるのだ。)

(92) wa:garu wassairu. (私がぞ 悪い。)

(93) naʔa:ʔiru ʔikibusairu. (那覇にぞ 行きたい。/那覇に本当に行きたいの意。)

#### 7.2.4 ガ ga (か) 自問

沖縄中南部方言等では、広く ga (か) は、[-ra]の形 (ラ結び形) と呼応し、疑問をあらわす用法がみられた。例えば、沖縄奥武方言では、ta:gaga tsura wakaraN. (誰が来るかわからない。) のような例がある。

しかし、大兼久方言では、このような ga (か) の結びは、これまでの調査では確認できず、次のようになる。

(94) tarugaga ku:ga wakaraN. (誰が 来るか わからない。)

#### 7.2.5 マリ mari (まで) 到達点

(95) ʔarumari kʰikanro:. (畑まで 聞こえるよ。)

(96) ʔja:ga hakumari mattsukunro:. (君が 書くまで 待っている。)

(97) nagumarija ru:ʔi ʔikjo:sunro:. (名護までは 1人で 行くことが できる。)

(98) taro:ja ju:ga kʰuimari korataN. (太郎は 日が 暮れるまで 来なかった。)

(99) ʔja:ja ja:mari ʔutti ʔunu ʔaru hoiruʔi:

(君は 家まで 売って その 畑を 買うのか。)

#### 7.2.6 ベー be: (ばかり、だけ) 限定

(100) ʔamibe: ʔuinja:. (雨ばかり 降るね。)

(101) ʔuribe: nukuʔi. (こればかり 残すのか。)

(102) wanja ʔi:ʔibe: kari kari. (私は、肉ばかり 食べている。)

(103) ʔja:be:mi ʔitʃo:NRO: (君だけに 言って いるよ。)

#### 7.2.7 ビケー bike: (ばかり) 限定

(104) ʔattʃi dʒippumbike: je:sa. (歩いて 10分ばかりだよ。)

7.2.8 ンレーnre: (など、なんか) 例示

(105)tabakunre:  $\phi$ utʃija naran. (タバコなど 吸っては いけない。)

(106)hasanre:ja na: ʃimusa. (傘なんかは もう いいよ。)

7.2.9 アタイ atai (ぐらい) 程度

(107)?anuataija wanun nairusuru. (あのぐらいは 私も できる。)

7.2.10 ナーna: (ずつ) 等量の数量・割合・分割等

(108)?ikisa:na: waki:ga. (いくつずつ 分けようか。)

(109)?u $\phi$ ina: haja:se:. (少しずつ 運べ。)

7.2.11 イェーティン jetin (でも) 例示

(110)p<sup>ʔ</sup>i:dzajetin kamanri:ban. (山羊でも 食べないってよ。)

7.3 連体助詞

7.3.1 ヌ nu (の) 連体修飾

人称代名詞、人名、親族呼称、一般名詞、連体の用法はほとんどヌ nu で承ける。

(111) $\phi$ a:me:nu ʃigutu (おばあさんの 仕事。)

(112)?amma:nu kʔiN. (お母さんの 着物。)

(113)?arinu tuʒi (あれの 妻。)

(114)tarunu munga (誰の ものか。)

(115)puʃinu na:. (星の 名前。)

(116) $\phi$ i:nu  $\phi$ a:. (木の 葉。)

7.3.2 ガ ga (が) 連体修飾

ガ ga の連体用法例は、かなり少ない。

(117)hurija ?ariga mundo:. (これは あれの ものよ。)

(118)t<sup>ʔ</sup>aiga muN (2人の もの。)

次の自称、対称の代名詞は、無助詞で用いられる。

(119)hurija wa: muN. (これは 私の もの。)



(120)hurija ʔja: muN. (これは お前の もの。)

## 8. 大宜味大兼久方言版「おおきなかぶ」

- (1) まがはぬ で一くに  
おおきな かぶ
- (2) ふすめーが で一くにぬ さに まちゃん  
おじいさんが、かぶの たねを まきました。
- (3) あまはぬ あまはぬ で一くにに なれーしむしがやー  
「あまい あまい かぶに なれ。」
- (4) まがはぬ まがはぬ で一くにに なれーしむしがやー  
おおきな おおきな かぶに なれ。」
- (5) あまはぬ みじらはぬ  
あまい (げんきの よい、) めずらしい
- (6) うみきち まがはぬ で一くにが なっとうん  
とてつもなく おおきい かぶが できました。
- (7) ふすめーや で一くに とうんりーばん  
おじいさんは、かぶを ぬこうと しました。
- (8) えんやさ こらしよ  
「うんどこしよ。どっこいしよ。」
- (9) いえーしが で一くにや とうららんたん  
ところが、かぶは ぬけません。
- (10) ふすめーや ふあーめー あびてい ちゃん  
おじいさんは、おばあさんを よんで きました。

- (11) ふあーめーが ふすめー ひっばってい  
おばあさんが おじいさんを ひっばって、
- (12) ふすめーが でーくに とぅらーりさしが  
おじいさんが かぶを ひっばって――。
- (13) えんやさ こらしよ  
「うんとこしよ。どっこいしよ。」
- (14) いえーしが でーくにや とぅららんたん  
それでも、かぶは ぬけません。
- (15) ふあーめーや まーが あびてい ちゃん  
おばあさんは、まごを よんで きました。
- (16) まーがが ふあーめー ひっばってい  
まごが おばあさんを ひっばって、
- (17) ふあーめーが ふすめー ひっばってい  
おばあさんが おじいさんを ひっばって、
- (18) ふすめーが でーくに とぅらーりさしが  
おじいさんが かぶを ひっばって――。
- (19) えんやさ こらしよ  
「うんとこしよ。どっこいしよ。」
- (20) なま でーくにや とぅららん  
まだまだ、かぶは ぬけません。
- (21) まーがや いぬくわ そーてい ちゃん。  
まごは、いぬを よんで (つれて) きました。
- (22) いぬくわが まーが ひっばってい  
いぬが まごを ひっばって、
- (23) まーがが ふあーめー ひっばってい  
まごが おばあさんを ひっばって、

- (24) ふあーめーが ふすめー ひっばってい  
おばあさんが おじいさんを ひっばって、
- (25) ふすめーが でーくに とうらーりさしが  
おじいさんが かぶを ひっばって――。
- (26) えんやさ こらしよ  
「うんとこしよ。どっこいしよ。」
- (27) いかーしん でーくにや とうららん  
まだまだ、まだまだ、ぬけません。
- (28) いぬくわや まやー そーてい ちゃん  
いぬは、ねこを よんで (つれて) きました。
- (29) まやーが いぬくわ ひっばってい  
ねこが いぬを ひっばって、
- (30) いぬくわが まーが ひっばってい  
いぬが まごを ひっばって、
- (31) まーがが ふあーめー ひっばってい  
まごが おばあさんを ひっばって、
- (32) ふあーめーが ふすめー ひっばってい  
おばあさんが おじいさんを ひっばって、
- (33) ふすめーが でーくに とうらーりさしが  
おじいさんが かぶを ひっばって――。
- (34) えんやさ こらしよ  
「うんとこしよ。どっこいしよ。」
- (35) いえーしが でーくにや とうららんたん  
それでも、かぶは ぬけません。
- (36) まやーや うえんつ そーていちゃん  
ねこは、ねずみを よんで (つれて) きました。

- (37) うえんつが まやー ひっばってい  
ねずみが ねこを ひっばって、
- (38) まやーが いぬくわ ひっばってい  
ねこが いぬを ひっばって、
- (39) いぬくわが まーが ひっばってい  
いぬが まごを ひっばって、
- (40) まーがが ふあーめー ひっばってい  
まごが おばあさんを ひっばって、
- (41) ふあーめーが ふすめー ひっばってい  
おばあさんが おじいさんを ひっばって、
- (42) ふすめーが でーくに とうらーりさしが  
おじいさんが かぶを ひっばって――。
- (43) えんやさ こらしよ  
「うんとこしよ。どっこいしよ。」
- (44) よーやく でーくにや とうらったん  
やっと、かぶは ぬけました。

#### 参考文献

- 内間直仁、新垣公弥子(2000)『沖縄北部・南部方言の記述的研究』風間書房
- 津波高志他(1982)『沖縄国頭の村落』新星図書出版
- 名護市史編纂委員会(2006)『名護市史本編・10 言語』名護市
- 琉球方言研究クラブ(1992)『琉大方言7号 津波方言の音韻』
- ローレンス・ウェイン (2004)「大宜味村田嘉里方言の音調体系」『琉球の方言』29号  
法政大学沖縄文化研究所
- ローレンス・ウェイン(2010)「大宜味村方言の音韻について：附 大宜味村四地点音調資料」  
『琉球の方言』35号法政大学沖縄文化研究所